



# 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部  
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35  
慶應義塾大学医学部外科学教室  
TEL:03-5363-3802 FAX:03-3355-4707  
発行者：今野弘之  
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長  
八木 洋 (慶應義塾大学医学部外科学教室)  
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060  
年2回発行 1995年4月創刊

## Letter to Japan Chapter of the International Society of Surgery

Secretary-General, ISS/SIC  
President ISS/SIC 2011

**Ken Boffard**



Almost exactly 10 years ago, we held International Surgical Week (ISW) in Yokohama (August 2011). As President of ISS at that time, on 11th March, we heard the terrible news of the Great Eastern Earthquake and tsunami (Great Tōhoku Earthquake). This threatened the whole organization of International Surgical Week. We then watched in admiration as Japan and its people dealt with the catastrophe and started rebuilding. We committed to continuing with ISW, and due to the efficiency of the Local Organising Committee, led by Professor Masahiko Watanabe and his team, and Professor Masaki Kitajima and the Japan Chapter of the International Surgical Society ISW turned out to be one of the best meetings we have held, enjoyed by surgeons from across the world. The Japanese Chapter of your Society is amongst our largest, and the support we have received over many years from the Chapter, and its members has been hugely appreciated.

Sadly, ten years later, the world has been facing another catastrophe, and the pandemic is still present. It will not go away but will become manageable. Japan has not been spared, and we wish you well and know that you will be at the forefront of the world's ability to deal with it, as

you have always done in your history. The sheer way Japan was able to hold the Olympic and Paralympic Games so successfully despite an absence of a real audience, (but not virtual) was again remarkable, and the first time anything like this has taken place. Not ideal, but it worked! ISS is not immune. In 2003 we had to cancel the Congress in Bangkok due to the SARS epidemic. We had to postpone the ISW 2021 in Kuala Lumpur in August, and it was substituted with a Virtual Surgical Week (VSW) over the same period. This was enormously successful (though not really a replacement) and we had 2000 participating in VSW including many members from the Japanese Chapter forming one of the largest groups. The membership numbers of the Society are growing, we have been able to attract not only younger members including Residents, but we now have a section for Medical Students. If we can lay the foundations by making our newer members feel involved, we are laying the foundations for the future.

What is very clear is that with new media access, the days of holding ISW every second year, are past, although the organization and the economics of the meetings do not allow it to be held every year. We foresee that ISW – “the World's Congress of Surgery,” will take place every second year and VSW each year in-between. We have partnered with other international Societies such as the Royal College of Surgeons of England, the American College of Surgeons, The College of Surgeons of the Malaysian Academy of Medicine, and the Sri Lankan College of Surgeons.

We are optimistic that the 2021 meeting (now International Surgical Week ISW 2022) will take place in Malaysia as planned, preferably Face to Face, and look forward to seeing you there if it is possible.

## International Surgical Week (ISW) 2022

2022年8月28日 - 9月1日 Kuala Lumpur

Kuala Lumpur, Malaysia  
28 August - 1 September 2022  
49th World Congress of the International Society of Surgery (ISS/SIC)  
**International Surgical Week**  
The World's Congress of Surgery isw2022.org  
Jointly organized with the 48th Congress of the College of Surgeons Academy of Medicine Malaysia (CSAMM)

International Society of Surgery / Société Internationale de Chirurgie (ISS/SIC) and its Integrated Societies:  
IAES - International Association of Endocrine Surgeons  
IATRSIC - International Association for Trauma Surgery and Intensive Care  
IASMEN - International Association for Surgical Metabolism and Nutrition  
BSI - Breast Surgery International  
ISDS - International Society for Digestive Surgery  
ASAP - Alliance for Surgery and Anesthesia Presence

**SAVE THE DATE!**  
#ISW2022 | isw2022.org  
Abstract Deadline:  
28 January 2022  
(no extension)

### ご案内

2022年8月28日(日)~9月1日(木)の5日間、マレーシアのクアラルンプールにおきまして、International Surgical Week (ISW)2022が開催されます。日本の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

~クアラルンプール~

地元では「KL (ケーエル)」の愛称で親しまれる首都・クアラルンプール。

旧クアラルンプール駅を中心に広がる英国統治時代の美しい建築物とペトロナスツインタワーをはじめとする近代建築と自然が見事に調和された美しい都市です。市内は交通機関が充実しており、主な観光スポットへは公共交通機関でアクセスが可能です。



**主な日程(予定)** 学術集会 8月28日~9月1日

- 8月28日(日) 17:00 オープニングセレモニー・レセプション  
20:00 Japan Night (日本人参加者懇親会)
- 8月29日(月) 8:00 Travel Scholars 紹介  
19:00 Kuala Lumpur Night (全体懇親会)
- 8月30日(火) 19:00 ISDS, IAES, IATSIC, BSI, ASAP, IASMEN 各学会夕食会
- 8月31日(水) 12:15 ISS/SIC 総会

**演題登録締め切り 2022年1月28日(金)**

※新型コロナウイルスの感染状況により開催方法が変更される場合がございます。最新情報は HP をご確認ください。 <https://www.isw2022.org/>

### Yokohama Award

5名程度 Award 一人当たり10万円

ISS/SIC 日本支部は、日本からの若手外科医の WCS の参加を支援しています。  
応募条件は、応募時点で40歳以下の日本人外科医で、①ISW2022 クアラルンプールに  
Oral の演題を提出、かつ②ISS/SIC 日本支部会員からの推薦があること、です。

## 万国外科学会参加を振り返って ——IASMEN と私

帝京大学医学部 外科学講座 教授

福島 亮治



寄稿文をご依頼いただき執筆するにあたり、本学会との関係を振り返ってみました。

本学会にはご存知のように6つの Collective Member Society があります。私は長らく外科代謝栄養の研究に携わってきた関係上、6つの中の IASMEN (International Association for Surgical Metabolism and Nutrition) で活動をしてまいりました。わが国ではこの分野において、以前理事長を拝命しておりました日本外科代謝栄養学会 (Japanese Society for surgical metabolism and nutrition)、現在副理事長をしております日本臨床栄養代謝学会 (旧日本静脈経腸栄養学会: Japanese society for clinical nutrition and metabolism) があり、さまざまな局面で IASMEN との交流が行われてきた経緯があります。

自身を振り返ってみると、故岡田正先生 (大阪大学小児外科) から IASMEN の会員になってはどうかとお誘いいただいたのが始まりだと記憶しております。しかし、当初はせっかく会員にいただいたのに、これといった活動はしていませんでした。その後、初めてこの学会の学術集会に参加したのは、2009年オーストラリア、アデレードでの第43回大会でした。この年は、所属の帝京大学が支給する海外の学会参加に対する旅費支給に応募することとなり、これまで訪問したことがないオーストラリアの学会が目にとまり、応募することにしました。幸いにも旅費の支給対象として選ばれ、参加することが叶いました。初めて訪問したオーストラリアでは、発表後夏休みをとってウルル (エアーズロック) へ足を伸ばしました。日本では見ることもない感動的な景色やアボリジニの歴史などに触れ、貴重な思い出となっています。

これをきっかけとして、2011年の横浜以降、ヘルシンキ、バンコック、

バーゼル、クラクフと本格的に学術集会に参加するようになり、指定演者や座長等を務めさせていただきました。思い起こせば、横浜大会は東日本大震災後で原発事故の影響が懸念される中での開催でしたが、IASMEN では当時 Vice President を務めておられた大柳正治先生の御尽力で、多くの海外参加者と交流を深めることができました。時の President は現在 ERAS 学会理事長の Olle Ljungqvist 先生で、わが国でも本格的に普及し始めた ERAS (Enhanced Recovery After Surgery) 談義に花が咲きました。2015年のバンコック大会では、開催直前に会場の真ん前で爆弾テロ事件がおきるといふ事件に見舞われました。私自身、参加するかどうか悩みましたが、当初は同行する予定であった妻と息子の旅程を急遽キャンセルして、一人で参加致しました。不安の中でバンコックに到着したのですが、街の様子にあまり危険は感ぜられず、ひとまず安堵しました。あちこちに荷物チェックの検問所はあるものの、結構いいかげんで、一瞬バッグの口を開く程度で通過できたので、嬉しいような、もっとしっかり検査して欲しいような複雑な気分になったことを覚えています。2017年のバーゼル大会では、東口高志先生が IASMEN の President に選出され、また小谷稔治先生も2015年から Secretary/Treasurer を務められており、日本との関係は一層深くなりました。2019年はクラクフで開催され、アウシュビッツを初めて訪問する機会を得ましたが、3週間後に ESPEN (欧州臨床栄養代謝学会) で再度この地を訪問することとなり、すっかり馴染みの都市となりました。これまで、世界のさまざまな場所を訪問し、多くの人々と交流する機会を与えていただいたこと、感謝しております。現在はコロナ禍で国外にでることが極めて困難になっています。早く収束して、また広く世界の人々と直接論議できる日が訪れることを切望してやみません。



IASMEN Dinner in Krakow

## ISW と私

浜松医科大学 外科学第二講座 教授

竹内 裕也



浜松医科大学 竹内裕也でございます。ISW には卒業5年目の1997年第37回 (@アカブルコ) に初めて参加させていただきました。その時の忘れられないエピソードをご紹介します。

米国以外の初めての国際学会、またリゾート地として有名なアカブルコということで、同期6人で抄録を出し、見事全員口演発表。みんなで成田-ロサンゼルス-メキシコシティと乗り継いでアカブルコに行くことになりました。

当時まだ若かった私はロングフライトをものともせず、ロサンゼルスで short transit の後、無事メキシコシティに到着しました。午後3時ごろ空港についた我々は、もはや機内食に飽きていたこととアルコールへの欲求から、誰からともなくランチしようということになりました。次のアカブルコ行き便の出発までまだ2時間以上あります。早速空港内のレストランに入りました。

本場のタコスとコロナビール、テキーラは本当に美味しく、初メキシコの興奮と解放感も加わって、すぐに居酒屋の宴会状態になりました。

1時間ほど過ぎたでしょうか、我々の後の便で空港に到着されたスタッフ (上司) の先生にレストランの外から声をかけられました。「あれ、お前たちのアカブルコ便、もう出ちゃったんじゃないの?」

「まだ離陸まで1時間弱ありますけど」「それ時計ずれてない? ロサンゼルスとメキシコシティは2時間時差があるんだよ」「えっ (全員絶句)」腕時計の時刻はロサンゼルス時間でした。

その瞬間から地獄が待っていました。全員出発ゲートに走りましたが、乗るべき飛行機はもちろんすでに離陸した後でした。何とか今日中にアカブルコに到着しなくては、、、私と同期の1人 (現在某大学教授) は、翌日朝一番の発表、しかも座長は北島政樹先生だったのです。

何とかこの後の最終便に乗れば、アカブルコに到着できるということ

がわかりましたが、すでに最終便はキャンセル待ちの状態です。慣れない英語と学生時代にかじった片言スペイン語で、今日中にアカブルコに着かないと大変なことになると、手あたり次第説明しましたが空港スタッフの反応はいまいち、もし最終便に乗れなければ夜行バスかタクシーでも行くしかない (後でわかりましたが、メキシコシティとアカブルコの距離は300km ありました)。

この時ほど全身冷や汗が出たことは前にも後にもありません。しかし、キャンセル待ちの列に並んで1時間以上、祈りが通じたのか何とか最終便に乗ることができて、翌朝何事もなかったかのように発表することができました。何もご存知ない北島先生は「発表まあまあだったよ」と終わった後に優しく声をかけてくださいましたが、緊張のあまり前日空港での宴会のために飛行機を乗り過ごしたことはご報告できませんでした。

天国の北島先生には、この場をお借りして深く懺悔いたします。また機会がございましたら、その後ブリュッセル ISW でスリにあった話やクラコウ ISW で警官の職務質問に合い罰金を払われた話などご報告させていただきます。



自然と健康を科学する。漢方のツムラです。

株式会社ツムラ

<https://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。  
【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970  
【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

## 日本支部事務局長の13年

湘南慶育病院 外科・消化器外科 部長  
Former Secretary General, ISS/SIC Japan Chapter

## 和田 則仁



2021年3月末をもって、万国外科学会日本支部の事務局長を、八木洋先生に引き継がせていただきました。13年にわたり職責を果たせたのも、会員の先生方をはじめ多くの方に支えていただいたからこそであります。

2007年8月、北川雄光教授が万国外科学会日本支部長に就任し、日本支部事務局が慶應義塾大学外科に移りました。12月28日に前任の山川達郎先生に信濃町までお越しいただいた際に、医局での引継ぎの場に私がたまたま通りがかったことがご縁で、100余年の伝統あるISS/SICの日本支部事務局長の大役を仰せつかることになりました。ISS/SICに入会したのが2006年10月8日で、初めての発表が2007年8月のモンリオールの学会でしたので、本当に右も左もわからない状況で就任させていただいたこととなります。当初は新入会の先生の推薦状作成や支部総会の準備、企業広告集めなどのルーチンワークを一生懸命こなしておりました。しかし慣れてくるうちに、日本支部の国際的地位向上や財務体質の強化にも取り組んでいくことができました。特に苦労したのが日本からの座長の推薦です。Collective Member学会の企画セッションは1年以上前には座長と演者が

決まっていますが、一般演題の座長は集まった演題数によって決まるため、該当する分野の推薦者リストを出すのが、学会の3か月前になります。国際学会で3か月前に座長推薦を手配するのはなかなか難しく、お叱りをいただくことも多々ありました。それでも一人でも多くの先生方を日本から座長として出したいという思いで皆様に助けをいただき頑張ってきました。その中で有難かったのは、渡邊昌彦先生がLOC Presidentとして開催されたISW2011より日本支部に寄贈いただいた資金を元に設立されたYokohama Awardです。口演に応募した若手外科医5名に10万円の賞金を出すもので、これによりその指導者の学会参加も増え、参加予定の先生から座長を選ぶ幅が広がりました。

事務局長として参加した学会は、アデレード、横浜、ヘルシンキ、バンコク、バーゼル、クラクフと6回にもなりました。その間、支部長として北川雄光先生、北野正剛先生、今野弘之先生にご指導いただきました。世界各国、国内各地で多くの思い出があり、限られた紙面では書きつくせぬほどであります。また事務局秘書は8名の方に順に担当していただきました。

そしてISS/SICではCourt of Honor, Honorary Member, Past Presidentというお立場でご指導いただいた恩師の故北島政樹先生には本当にかわいがっていただき、多くのことを教えていただきました。また国内外の有名なprofessorの先生方をはじめ、多くの先生にも懇意にいただき、いろいろと助けていただきました。この場を借りて心より御礼申し上げます。万国外科学会には引き続き参加させていただければと思います。変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

### 第50回 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 議事録 2021年4月10日(土曜日) 午前7:15~7:45 WEB開催

出席者：今井常夫、井本 滋、海野倫明、榎本圭佑、遠藤 格、大友康裕、織田 順、掛地吉弘、片井 均、菊池勝一、菊池寛利、北川雄光、北川博昭、北野正剛、熊谷一秀、河野 透、小谷穰治、小林道也、今野弘之、佐藤美信、佐藤武郎、島田英昭、杉谷 巖、鈴木眞一、高見 博、竹内裕也、竹政伊知朗、田邊 稔、長田拓哉、中村清吾、夏越祥次、西田俊朗、野村幸世、原口義座、比企直樹、福島亮治、堀口明彦、前田耕太郎、前田茂人、松原久裕、溝端康光、宮内 昭、村尾佳則、森 正樹、守瀬善一、八木 洋、矢永勝彦、山下浩二、山下洋市、横江隆夫、吉田 寛、吉田和弘、和田則仁  
(敬称略、五十音順、計53名)(事務局：猪瀬純子)

- 1. 開会の挨拶** 今野弘之日本支部長
- 2. 支部活動報告** 会員動向等について報告(日本支部ニュース第52号に掲載)、新監事として宮内昭先生をご紹介
- 3. 決算・予算案** 原案(日本支部ニュース第52号に掲載)通り承認された。
- 4. ISS/SIC 理事会報告・VSW2021・ISW2022について**  
今野日本支部長：3月18、19日両日に渡りZOOMにて理事会が行われた。VSW2021が8月30日~9月3日にバーチャルでSurgical Weekとして開催される。プログラム委員長はISDS会長のFichera教授。スイス時間の8時~19時までの開催。参加資格は会費を支払い済の会員のみ。1セッションが55分(録画)で5分の質問タイム。質問はチャットで受け付け、回答は後日メールでの事。6つのソサエティ全てが参加。ISW2022については今のところ対面で考えられているが、クリアしなければならない課題は残っており、今後の状況を鑑み開催方法は柔軟に対応予定。
- 5. 現会則の改定案について**  
和田事務局長：現状に合わせて改定案を作成。前回の支部総会で共有した。特に意見はなかったので本日をもって改定とする。
- 6. Collective Member Societiesについて**  
IAES 宮内 昭先生：VSW2021にむけて多くの先生方がビデオを作成し投稿している。内容としてはPresidential Welcoming、State of the Art Lecture、Video、Ablation Techniques、稀なケースの検討会、CPC等。時間的な制約から一般演題は募集出来なかったことを了承頂きたい。  
IASMEN 小谷穰治先生：VSW2021にむけて、全て指定演者でプログラムを完成させている。IASMENのメンバー増員を図る為、SNSを開設。少しずつ視聴者は増えている。  
IATSIC 溝端康光先生：月に一回のウェビナーがIATSICで開催されており情報交換をしている。例年行っているDSTCに関しては往來が

出来ない状況なので開催は中止されている。  
BSI 井本 滋先生：VSW2021にむけてプログラムは決まっており順調に準備を進めている。その他にウェブチュートリアルとして6月4日、12月4日、5月7日(2022年)に配信予定。

ISDS 田邊 稔先生：メンバーシップについて、現在会員は約250名。アメリカ48名、日本39人、香港、チリと続く。コロナ禍で会員の勧誘も難しい状況ではあるが落ち着いてきた際にはぜひ日本の先生方にもご入会頂きたい。

#### 7. その他

事務局長の引継ぎについて  
和田則仁先生から八木 洋先生に引継ぎ

#### 8. 次回支部総会日程について

次回の総会は恒例どおり日本臨床外科学会最終日早朝を予定している。  
以上(文責 八木 洋)

日本標準商品分類番号 874291  
抗悪性腫瘍剤/抗PD-L1<sup>注1)</sup>ヒト化モノクローナル抗体  
生物由来製品、創薬、処方箋医薬品<sup>注2)</sup> (薬価基準収載)  
**テセントリク<sup>®</sup> 点滴静注 1200mg**  
TECENTRIQ<sup>®</sup>  
atezolizumab  
アテゾリズマブ(遺伝子組換え)注  
注1)PD-L1(Programmed Death-Ligand)  
注2)注意-医師等の処方箋により使用すること  
※効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。 ©F. Hoffmann-L Roche社(スイス)登録商標  
製造販売元 中外製薬株式会社 (資料請求先)メディカルインフォメーション部  
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1 | TEL.0120-140564 FAX.0120-189705  
 ロシュグループ  
2019年3月作成

## ISS/SIC 万国外科学会日本支部 新会則について

現状に合わせて改定案を作成し、第49回の支部総会で共有致しました。

第6章 第23条【会則の変更】により、第50回支部総会をもって改定とさせていただきます。

## 万国外科学会日本支部会則

## 第1章 総則

## 第1条 (名称)

本会は、万国外科学会日本支部(英文名: Japan Chapter of the International Society of Surgery)と称する。

## 第2条 (目的)

本会は、万国外科学会本部(以下「本部」と称する)の目的、すなわち開発国ならびに開発途上国における持続可能な外科治療を目指し、教育・研究を通して外科学の発展に寄与することを目的とする。

## 第3条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 年2回の総会の開催
- (2) 年2回の日本支部ニュースの発行
- (3) 2年に1度開催される学術集会 World Congress of Surgery (WCS) のプロモーション
- (4) 本部との協力連携
- (5) 各 Collective Member Societies の日本における統括
- (6) Yokohama Award の表彰
- (7) 本会の目的を達するために必要なその他の事項

## 第4条 (事務局)

本会は、事務を円滑に遂行するため事務局を設置する。事務局を、東京都新宿区信濃町35番地慶應義塾大学医学部外科学教室におく。事務局に必要な職員をおくことができる。

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35

電話: 03-3353-1211 (代) 内線 61501

直通: 03-5363-3802 FAX: 03-3355-4707

## 第2章 会員

## 第5条 (種別)

本会の会員は、次の4種とし、本部の資格に準ずる(準会員を除く)。

- (1) 正会員 Active member, Associate member  
以下(2)(3)に該当しないすべての会員
- (2) シニア会員 Senior member  
15年以上正会員として在籍し、現役を退き、かつ本部へ申請をした会員
- (3) 名誉会員 Honorary member  
本会の推薦により、本部の理事会から名誉称号を授与された会員
- (4) 準会員  
本会が定める会員。本部を何らかの理由で退会し、引き続き本会に在籍することを希望した会員

## 第6条 (入会)

本部の規定に従い所定の手続きを経て、理事会で承認され、正式な会員となる。本部への入会と同時に本会への入会とする。

## 第7条 (会員資格の喪失)

会員は本部退会により、その資格を喪失する。ただし、本部退会後は、本会準会員として在籍することができる。

## 第8条 (退会)

本会を退会する者は、その旨本部と本会事務局へ届け出なければならない。

## 第9条 (権利および義務)

1. 会員(準会員を除く)は、本会が年2回開催する総会に出席する権利を有し、同時に本会が発行する日本支部ニュースの無料配布を受けることができる。
2. 正会員は、所定の本部年会費と日本支部年会費を納入しなければならない。議決権及び役員に選任される権利を有する。
3. シニア会員及び名誉会員は、年会費を免除される。議決権及び役員に選任される権利を有する。
4. 準会員は、年会費の支払義務および一切の権利を有しない。希望により日本支部ニュースの無料配布を受けることができる。

## 第3章 役員

## 第10条 (役員の種類)

本会に、次の役員をおく。

日本支部長 1名

事務局長 1名

監事 2名

## 第11条 (選任)

日本支部長は、会員の中から選出され、総会で承認をうけるものとする。事務局長及び監事は、会員の中から日本支部長が指名し、総会で承認を受けるものとする。

## 第12条 (職務および権限)

日本支部長は、本会を代表し、会務を統括するものとする。また、総会を招集し、総会における議長を務める。

事務局長は、日本支部長を補佐し、日本支部長不在の際はその職務を代行する。

監事は、本会の事業及び財産の状況を調査することができる。また、決算報告書を監査しなければならない。

## 第13条 (任期)

役員任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、日本支部長の再任は、1期までとする。

## 第4章 総会

## 第14条 (構成)

本会の総会は、第5条に定める会員(準会員を除く)をもって構成する。

## 第15条 (権限)

総会は、次の事項について決議する。

- (1) 役員承認
- (2) 年次収支決算書、予算案の承認
- (3) 会則の変更
- (4) その他、本会の運営に関して重要な事項

## 第16条 (開催)

総会は年2回、開催するものとする。日本支部長が招集し、議長を務める。

## 第17条 (議決)

総会の議決は、出席会員の過半数の同意を必要とする。

## 第18条 (議事録)

総会の議事については、議事録を作成しなければならない。

## 第5章 会計

## 第19条 (年会費)

本会の経費は、年会費および寄附金をこれにあてるものとする。年会費は、本部が定める所定の額を本部へ直接納入する。納入された年会費は、本会の運営費にあてるものとする。

## 第20条 (会計年度)

本会の会計年度は、毎年1月1日から12月31日までとする。

## 第21条 (予算)

本会の事業計画及び収支予算は、事務局が作成し、日本支部長が承認の上、総会で会員の承認を得なければならない。

## 第22条 (決算)

本会の事業報告及び収支決算は、会計年度終了後速やかに事務局が作成し、日本支部長の承認、監事の監査を経て、総会で会員の承認を得なければならない。

## 第6章 会則の変更

## 第23条 (会則の変更)

本会則は、総会における議決を経て、改正することができる。

## 第24条 (その他)

本会則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

## 付則

本会則は、総会における議決を経て、令和3年4月10日から施行する。

平成9年(1997年)4月9日 会則発行

令和2年10月31日 一部改正

視認性と吸収性が求められる術後創へ

**ロイコメドC**  
フィルムドレッシング

ハイドロゲルパッドが  
視認性と吸水性を提供

- 創の観察を容易にする視認性
- 湿潤環境を維持するための適度な吸水性
- 固定性と肌への優しさ

THERAPIES. HAND IN HAND.

一般名称: 救急絆創膏 / 販売名: ロイコメドC フィルムドレッシング / 医療機器届出番号: 1381X10103000034

**TERUMO**

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 2-44-1 www.terumo.co.jp

**BSN** medical

詳細は添付文書をご参照ください

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。  
Leukomedはビーエスエヌ・メディカル社(ドイツ)の登録商標です。  
©テルモ株式会社 2016年6月

血液凝固阻止剤  
**アコアラン**® 静注用 600・1800  
600国際単位、1800国際単位/バイアル  
ACOALAN® Injection アンチトロンビン ガンマ(遺伝子組換え)静注用  
[生物由来製品] [処方箋医薬品] (注意: 医師等の処方箋により使用すること) [薬価標準収載]

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

販売元 一般社団法人 日本血液製剤機構  
協和キリン株式会社 JB 東京都港区芝浦3-1-1  
ACQ-202101

[文献請求先及び問い合わせ先] 日本血液製剤機構 <すり相談室>  
〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト https://www.jpbo.or.jp/med/di/